

## 教育と臨床の橋渡しをめざして —働きながら大学院生として学んでいる立場から—

川村 佳代

近森病院 救急看護認定看護師

私は本年 4 月より、大学院看護学部の看護教育・管理学分野に在籍させていただいております。2010年に救急看護認定看護師資格を取得後、近森病院へ入職し現在は、病棟スタッフとして勤務しながら、新人看護師研修や院内研修でフィジカルアセスメントなどの教育にも携わっています。新人看護師からの「川村さんの講義、面白い。わかりやすい。看護学校時代にこんな授業を受けたかった。」などの反応が嬉しく、もっと看護師教育に携わりたいという思いが日々強くなってきました。そして、研修で教えたことが、臨床で行動変容するにはどのような関わりをすればいいのかと疑問はどんどん大きくなってきました。それが私に「教える方法を学びたい。看護の醍醐味を伝えたい」という思いを抱かせ、大学院進学への野望を持たせてくれたのです。

本年度の大学院看護学部の 1 年には 14 名が在籍しております。私の所属する看護管理・教育学分野は 7 名で、母子看護学分野 1 名・実践助産学分野 6 名です。14 名の職位的内訳は、看護師長、副看護師長、認定看護師、看護学校教員、病棟スタッフ、看護大学卒直後と、それぞれレディネスに違いがあります。

大学院でのカリキュラムは、看護管理・看護教育・看護理論・看護倫理・健康情報論などで構成されています。授業は院生主体にプレゼンテーションやディスカッションが主で科学的根拠に裏付けされた内容の文献や資料などを紹介しています。授業の中で紹介される同期生の経験談は、私にとって疑似体験と



なり、視野や見聞が広がり自信へとつながっています。逆に私が臨床や研修で行っている内容などをプレゼンテーションすると、「学部で学んだ点と点が、点と線になった」という意見を聞くことがあります。こんな時、これこそ臨床と教育のつながりだと嬉しく思います。

また現在、社会人として働きながら学んでおりますので、学んだことを即、臨床で実践に結びつけることができるという利点があります。看護管理の授業で学んだ「人・物・時間」などの人的管理・コスト管理・時間管理なども、今まで以上に「時は金なり」と考え、行動している自分に気づくことがあります。

「管理とは?」「教育とは?」などと時に多くの課題に押し潰されそうになり、弱気になることもありますが、職場のサポートもあり、同期や大学院の先生方に支えられながら何とか頑張っています。セミナー形式の授業形態は、皆のコミュニケーションの場としてとても役立っています。同期は、皆仲が良く、誰かが元気がないと励ましたり話を聞いたりする雰囲気があります。私も何度か皆に話を聞いてもらって救われたことがあります。今

までこんなクラスに巡り会ったことはなく、この年齢まで学校がこんなに楽しいと思ったことはありませんでした。大学院は、研究をするところですが、それだけではありません。生涯の友人を作る場でもあります。これから

先、様々な苦悩に立ち向かうこともあると思いますが、ここで得た素敵な仲間たちを心の糧に頑張りたいと思います。そして、今後、教育と臨床の橋渡しとして活躍していけるように、日々、自己研鑽していく所存です。